

南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

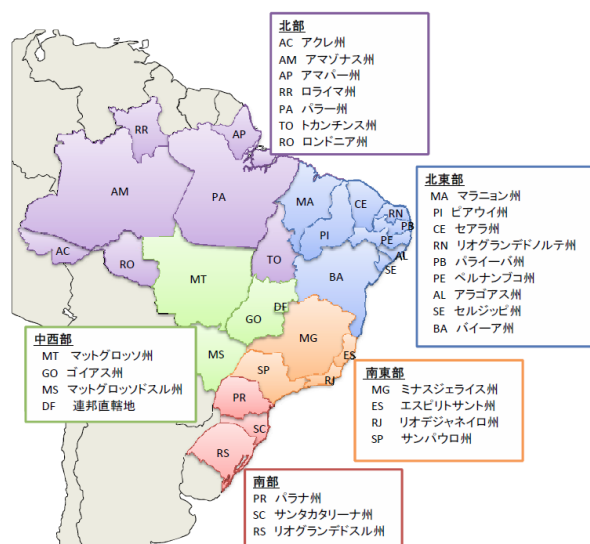
ブラジル政府の農牧センサス（2006年）^{（注）}によると、農業経営体520万戸の所有面積は3億5490万ヘクタールで、このうち農耕地が7670万ヘクタール、牧草地が1億7230万ヘクタールとなる（図1、表1）。2015/16年度（10月～翌9月）には、5834万ヘクタールが穀物生産に向けられ、生産量は1億8661万トン（前年度比10.2%減）となった。

畜産分野では、2015年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ第3位となった。また、豚肉生産量は中国、EU（28カ国）、米国に次ぐ第4位となった。輸出量は牛肉が世界第2位、鶏肉が第1位、豚肉が第4位となった。

2015年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は、単位重量当たりの価格下落の影響で、882億米ドル（同8.8%減）となった。しかし、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は751億米ドルとなり、農業部門が国の収支に重要な役割を果たしている。

（注）2016年のセンサス調査は予算不足で翌年に延期された。

図1 ブラジルの行政区分



資料：機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

（単位：千戸、千ha）

	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料：ブラジル地理統計院（IBGE）

2 畜産の動向

（1）肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心で、耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養管理も拡大している。

2008年に米国で端を発した国際金融危機以降、ブラジルの大手食肉企業の一部では、買収、合併による事業拡大を通じた経営合理化を図る動きが見られた。こうした中、ブラジルに本社を構えるJBS社は、輸出

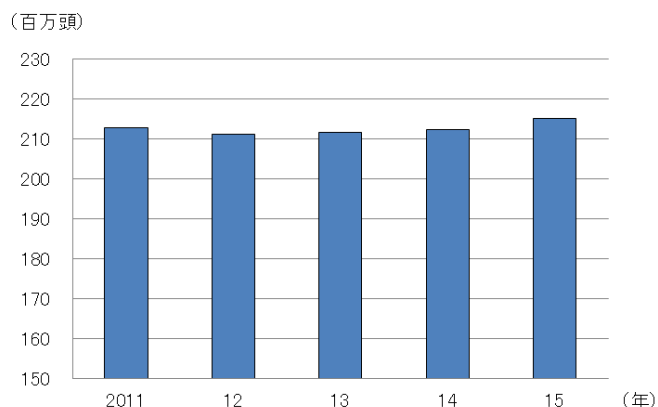
により企業体力を高めるとともに、グローバルな拡大戦略が奏功し、世界最大の食肉企業に成長した。

ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局（OIE）より同国初のワクチン非接種清浄地域のステータスを取得した。そのほかは、北部3州（ステータスなし）を除く州がワクチン接種清浄地域となっている。また、BSEについては、2012年、2014年に非定型のBSEが確認されたものの、2016年9月時点ではOIEより「無視できるリスク」と評価されている。

① 飼養動向

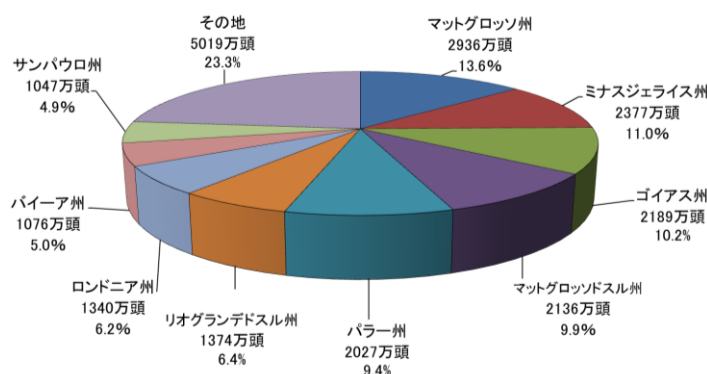
ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2015年の牛飼養頭数は、2億1520万頭（前年比1.3%増）となった（図2）。州別に見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が最も多く、次いでミナスジェライス州、ゴイアス州、マットグロッソドスル州、パラー州と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部での飼養が拡大している（図3）。

図2 牛飼養頭数の推移



資料：IBGE

図3 州別飼養頭数



資料：IBGE

② 牛肉の需給動向

ア 生産

米国農務省によると、ブラジルの2015年の牛と畜頭数は3837万頭（前年比5.0%減）、牛肉生産量は943万トン（同3.1%減、枝肉重量ベース）となった。近年、牛肉輸出需要の増加に伴い繁殖雌牛の淘汰が進み、子牛生産が減少したことが原因とされている。同国の牛肉生産は、約7年周期でキャトルサイクルによ

る増減があるとされており、2015年はこの減少期に当たるものとみられている。



写真1 ゴイアス州の放牧風景（2014年9月撮影）

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2015年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は、107万9118トン（前年比12.1%減）となった（表2）。

背景としては、牛肉生産量の減少を受けて輸出余力が低下したほか、主要輸出先のロシアやベネズエラからの引き合いが、原油相場の下落に伴う経済低迷などにより弱まったことなどが挙げられる。

しかしながら、米ドルに対してレアル安で為替相場が推移したことにより、ブラジル産牛肉の輸出競争力は高く、他国からの引き合いは依然として好調である。中でも2012年のBSE確認以降停止していた中国向けは、2015年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せており、11月単月では1万9990トンと最大の輸出先国となり、その存在感が高まっている。

日本は、2012年にブラジルでBSE（非定型）が発生・確認されたことを受け、加熱牛肉製品の輸入を停止していたが、2015年12月に同製品の輸入を再開することで合意した。

表2 国別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	前年比(増減率)		
				輸出量	輸出額	単価
エジプト	178,035	624,400	3,507	▲15.9%	▲6.8%	▲7.8%
ロシア	169,511	552,133	3,257	▲45.4%	▲57.5%	▲22.1%
香港	165,597	657,672	3,972	▲34.3%	▲44.0%	▲14.7%
イラン	97,792	382,752	3,914	59.9%	40.2%	▲12.3%
中国	97,478	476,391	4,887	全増	全増	全増
ベネズエラ	93,905	537,736	5,726	▲44.8%	▲40.5%	7.8%
チリ	54,165	256,099	4,728	1.2%	▲7.2%	▲8.3%
その他	222,635	1,176,926	5,286	▲2.1%	▲8.4%	▲6.5%
合計	1,079,118	4,664,109	4,322	▲12.1%	▲19.5%	▲8.4%

資料：ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）

注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

2：輸出量は製品重量ベース。

ウ 消費

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、2015年の牛肉の国内消費量は、674万8000トン（前年比5.3%減）とされ、1人当たり年間消費量は33.0キログラム（同6.0%減）となった（表3）。消費量は、生産が落ち込む中、牛肉価格が減産に伴い他の食肉と比べて相対的に高水準となったことから落ち込んだ。

表3 牛肉需給の推移

（単位：千トン、kg）

	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	8,448	8,752	9,602	9,107	8,528
輸入量	45	60	57	77	59
消費量	6,998	7,128	7,652	7,126	6,748
輸出量	1,495	1,684	2,007	2,058	1,839
1人当たり消費量	35.5	35.8	38.1	35.1	33.0

資料：CONAB

注1：2015年は暫定値。

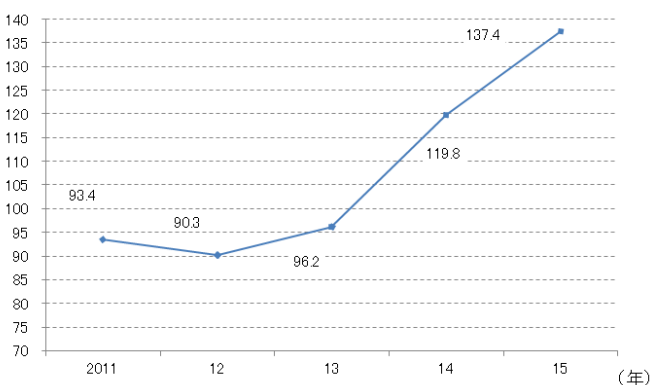
2：枝肉重量ベース。

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2015年の肥育牛の平均価格（マツグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ（15キログラム）当たり137.4レアル（前年比14.7%高）であった（図4）。牛肉小売価格（ランプ）は、1キログラム当たり25.7レアル（同13.7%高）となった。

図4 肥育牛の生産者販売価格の推移

（レアル/15kg）



資料：Informa Economics FNP

（2）養鶏・鶏肉産業

ブラジルブロイラー用ひな生産者協会（APINCO）によると、2015年の鶏肉生産量は、国内外からの需要が堅調であったことから、前年からかなり増加した。

同国内の鶏肉生産は、第1位のBRF社と、第2位である世界最大の食肉企業のJBS社がけん引している。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

国家食糧供給公社（CONAB）によると、2015年のブロイラー用ひなふ化羽数は、堅調な需要を受け、65億100万羽（前年比4.4%増）となった。鶏肉生産量は、飼料価格が落ち着き、1羽当たりの飼料給与量が増加した結果、1354万7000トン（同6.7%増）となった（表4）。

表4 鶏肉需給の推移

（単位：百万羽、千トン、kg）

	2011	2012	2013	2014	2015
ひなふ化羽数	6,245	6,007	6,145	6,226	6,501
生産量	12,863	12,645	12,308	12,692	13,547
輸出量	3,943	3,918	3,892	3,995	4,225
1人当たり消費量	45.2	43.9	43.6	44.1	48.1

資料：CONAB

注：輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2015年の鶏肉輸出量は、388万8498トン（前年比6.5%増）となった（表5）。増加の要因は、旺盛な需要を有するサウジアラビアや、米国での鳥インフルエンザ発生に伴い同国産鶏肉の輸入を停止した中国からの需要が高まったこととみられる。また、決済通貨である米ドルに対して、ブラジルレアル安で推移した為替相場により、良好な輸出環境が維持されたことも挙げられる。

輸出先の内訳を見ると、最も多かったのはサウジアラビアで78万4608トン（同22.1%増）、第2位は日本で41万7623トン（同1.7%増）、第3位は中国で30万7042トン（同34.9%増）となった。

表5 国別鶏肉輸出（2015年）

区分	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	前年比(増減率)		
				輸出量	輸出額	単価
サウジアラビア	784,608	1,352,613	1,724	22.1%	11.7%	▲ 8.5%
日本	417,623	836,534	2,003	1.7%	▲ 22.2%	▲ 23.5%
中国	307,042	607,660	1,979	34.9%	17.1%	▲ 13.2%
アラブ首長国連邦	303,180	508,394	1,677	18.6%	0.7%	▲ 15.1%
香港	236,290	293,329	1,241	▲ 25.1%	▲ 35.9%	▲ 14.3%
南アフリカ	227,103	116,244	512	45.3%	21.2%	▲ 16.6%
ベネズエラ	132,080	305,693	2,314	▲ 34.8%	▲ 28.6%	9.5%
その他	1,480,572	2,210,054	1,493	2.8%	▲ 15.1%	▲ 17.4%
合計	3,888,498	6,230,521	1,602	6.5%	▲ 9.6%	▲ 15.1%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

2：輸出量は製品重量ベース。

ウ 消費

CONABによると、2015年の1人当たり年間鶏肉消費量は、48.1キログラム（前年比9.1%増）となった（表4）。これは、景気が減速し、牛肉価格が高騰する中、安価な鶏肉需要が拡大したことによる。

② ブロイラーの価格動向

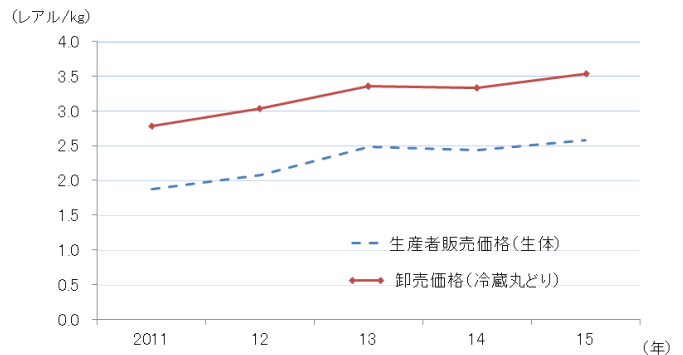
ア 生産者販売価格

CONABによると、2015年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり2.58レアル（前年比5.7%高）となった（図5）。

イ 卸売価格

2015年の冷蔵丸どりの卸売価格（サンパウロ州）は、鶏肉の引き合いが強まり、同3.54レアル（同6.3%高）となった。

図5 ブロイラー価格の推移（サンパウロ州）



資料：CONAB

3 飼料穀物の動向

ブラジルの2015/16年度(10月～翌9月)のトウモロコシの生産量は世界第3位、輸出量は第2位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作(第1期作)と冬作(第2期作)の年2回行われる。同年度の第1期作はリオグランデス州(南部)、第2期作はマットグロッソ州(中西部)が最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部3州のシェアは生産量ベースで23.9%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部(マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区)は、同44.4%となった。

① 主要な政策

2015/16年度(会計年度7月～翌6月)は、農務省(MAPA)が管轄する農業部門に対し、過去最大規模となる1877億レアル(前年度比20.2%増)が予算措置された(表6)。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移
(単位:億レアル)

農業年度	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
総予算額	1,072	1,153	1,360	1,561	1,877
営農・販売融資	802	890	973	1,120	1,495
投資融資	205	263	384	441	382
特別融資	65	-	-	-	-

資料: MAPA

注: 「特別融資」は、砂糖・エタノール製造施設の建設など特定産業への融資。

営農・販売融資については、1495億レアル(同33.5%増)の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。同予算のうち、189億レアルは、重要課題として継続実施されている中規模農業者支援国家プログラム(PRONAMP)に増額措置された。

投資融資については、382億レアルの予算が措置された。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム(ABC)が含まれ、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行(BNDES)が融資を行う。ABCについては、20億レアルの予算が措置され、金利は年利7.5～8.0%に設定された。同プログラムでは、①有機農業プログラムへの適応②牧草地の回復③農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入を奨励している。

② 飼料穀物の需給動向

2015/16年度(10月～翌9月)のトウモロコシ生産量は、6653万トン(前年度比21.4%減)と前年を大幅に下回った(表7)。

このうち、第1期作は、南部のパラナ州で生育期に降雨不足に陥るなど、主要生産集の作付面積が軒並み減少したことから、同14.4%減の2574万トンとなった。

第2期作も、主要生産州でエルニーニョ現象による干ばつ被害が強まり、単収が大幅に低下したことなどから、同25.3%減の4079万トンとなった。

また、同年度の輸出量は、前述のとおり生産量が大幅に減少したことから、1888万トン(同37.4%減)と大きく減少した。国内では5464万トン(同3.5%減)が消費され、695万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

2015/16年度の大豆の生産量は、過去最高を記録した前年度から0.8%減の9544万トンとなった(表8)。最大の生産州であるマットグロッソ州(生産量の約3割)が干ばつや病害虫被害で、第2位のパラナ州も病害虫被害や収穫期の多雨により生産量が落ち込んだことが、ブラジル全体の減産に大きく影響した。

作付面積については前年度をやや上回る3325万ヘ

クタールとなった。

なお、同年度の輸出量は5158万トン(同5.0%減)で、国内では4370万トン(同2.0%増)が消費され、期末在庫は148万トンとなった。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
期首在庫	4,460	4,005	6,985	12,399	10,604
生産量	72,980	81,506	80,052	84,672	66,531
輸入量	774	911	791	316	3,338
消費量	51,894	53,264	54,503	56,611	54,640
輸出量	22,314	26,174	20,925	30,172	18,883
期末在庫	4,005	6,985	12,399	10,604	6,950

資料: CONAB

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

区分	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16
期首在庫	3,020	448	744	1,552	929
生産量	66,383	81,499	86,121	96,228	95,435
輸入量	267	283	579	324	400
消費量	36,754	38,694	40,200	42,850	43,700
輸出量	32,468	42,792	45,692	54,324	51,582
期末在庫	448	744	1,552	929	1,476

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2015年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)は、60キログラム当たり23.45レアル(前年比2.7%高)と、生産量の減少に伴い、上昇した(表9)。

また、大豆生産者価格は国際市場からの好調な引き合いを受け、同62.5レアル(同3.3%高)となった(表10)。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2011	2012	2013	2014	2015
生産者販売価格	26.33	26.03	24.14	23.81	23.45

資料: CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2011	2012	2013	2014	2015
生産者販売価格	42.9	58.8	58.4	60.5	62.5

資料: CONAB